



## いのちを大切にすること

副園長 米澤 千秋

梅雨入り前の爽やかな晴れ間。子どもたちは風の心地よさを感じながら、近隣への散歩や屋上での遊びなどを楽しんでいます。

園の玄関付近ではザリガニやメダカ、キングョ、ウーパールーパーなどを飼育しています。そのコーナーは、子どもたちにとってお気に入りの“ミニ水族館”です。

入園して約2か月の1歳児ひよこ組の子どもたちも、“ミニ水族館”の生き物たちに興味津々です。散歩から帰ってきたAちゃんは、ちょうど自分の目線と同じ高さのウーパールーパーをじっと見つめていました。保育者が「ウーパールーパーちゃんに『ただいま』ね」「あ！ウーパールーパーちゃんがAちゃんのほうに来たね」などと声を掛けると、Aちゃんは保育者のほうを見てにっこり。

またある日には、何人もの子どもたちが「ザリガニさん元気ないね。」「死んじゃったのかな・・・」と、水槽を覗いていました。保育者が、大きくなるために脱皮することを知らせましたが、「全然動かないね」と、心配そうです。その後、Bちゃん親子は降園時に水槽の前を通る際、毎日ザリガニの様子を気に掛けていました。そして、元通りの姿で元気に動くザリガニを見て、「脱皮成功だね」「よかったね」など、親子で喜び合う姿が見られました。

4歳児は学級でカメを飼育しています。カメの“ももちゃん”をテラスで散歩させていた時のこと。工事のフェンスの方に向かう様子を見て「そっちは工事だよ！」「あ！ももちゃん、行っちゃダメだよ」と声を掛ける子どもたち。大人から見ればカメが通れないことは明らかな隙間ですが、日々エサをあげたり、散歩させたりする中で親しみを感じている“ももちゃん”が危ない所に行かないように、一生懸命話し掛けている姿はとても微笑ましかったです。

このように子どもたちは、身近な生き物に親しみをもって接する経験を通して、いのちを大切にすることの心が育まれ、知的好奇心も高まっていきます。そして、それを確かなものにするためには、身近な大人と一緒に気持ちを寄せて、子どもの思いや気付きに共感することが大切です。

文京区教育委員会では、5月と12月を「いのちと人権を考える月間」と位置付け、子どもたちが自尊感情や自己肯定感を高め、自分や他者の命や人権を大切にしようとする態度を育てる取組の充実を図っています。また6月には、「いのちの教育の充実」を受け、文京区教育委員会で予算化されている「一日動物村」を4、5歳児対象に行う予定です。

子どもたちが身近な動植物や友達との関わりなどを通し、様々な直接体験・感情体験ができるようにし、自分も他者も大切にすることの心を育ててまいります。